

はじめに

1 調査研究の背景

平成21年3月に告示された学習指導要領の改訂においては、「OECD生徒の学習到達度調査（PISA調査）」など各種の調査から明らかにされた、次のような課題が反映されている。

- ①思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題において、無答率が高いという課題が見られる。
- ②読解力に関しては成績分布の分散が拡大し、成績中位層が減り、低位層が増加している。
- ③家庭での学習時間の減少など、学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題が見られる。
- ④自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題が見られる。

特に、教科の指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することが重視されている。その実現のためには、「習得・活用・探究」のバランスを取った学習活動の展開が重要であり、高等学校学習指導要領解説の総則では、次のように述べられている。

＜高等学校学習指導要領解説総則 第1章 総説 第2節 改訂の基本方針（抜粋）＞

②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。

このため、各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間を中心として行われる、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。

また、これらの学習を通じて、その基盤となるのは言語に関する能力であり、国語科のみならず、各教科等においてその育成を重視している。さらに、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立することを重視している。

これらのことを踏まえつつ、各種調査の結果から指摘されている課題の解決を図るための教科指導の在り方を探る調査研究に取り組んだ。

※本冊子においては、平成11年3月に告示された学習指導要領を「現行の学習指導要領」、平成21年3月に告示された学習指導要領を「新学習指導要領」として記す。

Ⅱ 外国語（英語）に関して

平成21年3月9日に告示された高等学校学習指導要領（以下「新学習指導要領」と称す）の「第3款 英語に関する各科目に共通する内容等」に

4 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。

と示されている。この中で、「授業は英語で行う」という部分だけがクローズアップされ、報道等でも取り上げられた。しかし、重要なのはその前後の文言である。なぜ英語で授業をするのか。それは「生徒が英語に触れる場면을充実」させるためであり、「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」ためである。

「授業は英語で行うことを基本とする」とは、教師が授業を英語で行うとともに、英語による言語活動を行うことを授業の中心とし、生徒にも授業の中でできるだけ多く英語を使用させることである。これは、生徒が授業の中で、英語に触れたり英語でコミュニケーションを行ったりする機会を充実させるとともに、生徒が英語を英語のまま理解したり表現したりすることに慣れるような指導の充実を図ることを意味する。そのためには、簡単な指示のみを英語で行うのではなく、内容を理解させる際も視聴覚教材等を用いながら英問英答をしたり、英文の内容を簡単な英文で言い換えたりすることにより、教師は授業を英語で行うよう努めなければならない。つまり、授業中に英語でのインタラクションをいかに効果的に図っていくかが重要になる。

新学習指導要領では、外国語科の主な改訂の基本方針がいくつか示されたが、その一つは

○「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。

である。4技能を総合的に育成しながら、「生徒が英語に触れる機会を充実する」または「授業を実際のコミュニケーションの場とする」ための学習活動等について、調査研究を行った。どうすれば効果的に授業を英語で行い、生徒のコミュニケーション能力を伸長できるかを研究の主題とし、指導法の工夫改善に取り組んだ。

<研究協力委員>

栃木県立上三川高等学校	教諭	有吉久美子
栃木県立栃木翔南高等学校	教諭	加藤正雄
栃木県立今市高等学校	教諭	宮田勇

<研究委員>

栃木県総合教育センター研修部	指導主事	大岡寿子
----------------	------	------